

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第7回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 平成30年度地域活動支援事業の完了等について（公開）

(2) 地域活動支援事業 募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて（公開）

(3) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」（公開）

3 開催日時

平成31年2月25日（月） 午後6時27分から午後7時58分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・ 委 員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、
池内幸雄、伊藤善一、尾崎祐三、加藤与三郎、二野 浩、保坂真由美、
山田宏文、横尾彰平

・ 事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

・ 佐藤委員を除く11名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

・ 会議の開会を宣言

・ 会議録の確認：山田委員、横尾委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—次第3報告（1）平成30年度地域活動支援事業の完了等について—

【山口会長】

次第3報告（1）「平成30年度地域活動支援事業の完了等について」に入る。

事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—次第3報告（2）「地域活動支援事業 募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて」—

【山口会長】

次第3報告（2）「地域活動支援事業 募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて」に入る。

事務局に説明を求める。

【小林主任】

- ・平成31年度の募集要項、審査・採択のルール等の案について、資料No.2～4のとおり作成。今後全区統一の修正内容を反映する予定。
- ・地域活動支援事業の見直し検討結果について、前回会議で出された意見をもとに事務局で案を作成し、正副会長で確認した上で、参考資料のとおり市に報告した。28区の報告結果を市で取りまとめ、何らかの形で今後公表する予定。

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求める。

【池内委員】

新聞によると県も市もかなり財政が逼迫（ひっばく）しているようだが、このようなことが出てくるといことは、この事業は永遠には続かない予定だと理解してよいのか。

【小林主任】

今年度、地域協議会委員から地域活動支援事業の検証・検討等をしてもらい、市ではそれに基づく見直し方法等の案を提示した。今後おそらく定期的に見直し等が行われると思うため、その際に改めて検討されると思う。

【池内委員】

ということは、減額になる可能性もあるということか。例えば三郷区は490万円だが、増えることはないということなのか。

【山口会長】

予算案では、均等割りと人口割りで1億8千万円を28区で割っている。継続している事業でも、人口が減ってくれば予算的なものは減る可能性はある。

【池内委員】

検証結果に基づく見直しの市の案とは、具体的にどこの課なのか。

【小林主任】

自治・地域振興課である。地域協議会と地域活動支援事業の担当課になる。

【池内委員】

そこに圧力がかかり、「少し減額しなさい」と言われているのか。

【山口会長】

そうではない。昨年の会長会議で市の案について説明があった。各地域協議会で、金額は別にして、内容的なもの見直しをしてもらい、それを踏まえての市の担当課から示された案。それを参考に各地域協議会で来年度のルール等を検討した。その結果について報告を求められたため、昨年12月に協議し、三郷区については、参考資料のとおり地域性だとか、定着しているといった話があった。予算額については、議会での議決を経て確定になるが、現時点では、事業を継続し分配方法が変わらない限りはこのまま行くと思う。今はそれしか言えない。

他に意見を求めるがなし。

来年度の地域活動支援事業の募集要項、審査・採択のルール等について、資料のとおりでよいか確認を求め、委員全員の了承を得る。

一次第4議題（1）自主的審議事項「三郷区の人口減少について」—

【山口会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項『三郷区の人口減少について』」に入る。

まず、資料No.5～7をもとに、三郷区に転入された方との座談会や高士区地域協議会との意見交換会の振り返りを行う。

委員に意見を求める。

【尾崎委員】

それとは違うことで、人口減少の根本的な話になるが、平成26年に成立した改正都市再生特別措置法に基づき、上越市が立地適正化計画を作成した。立地適正化計画とは、人口減少に伴い住みやすい場所を選んでそこへ人口を集約しようということらしい。過去の資料をいろいろ見ていくと、地域協議会での話し合いをしないで進んだ経過があるようだが、今人口減少の中で、上越市立地適正化計画について、事務局で分かれば説明してほしい。

【佐藤センター長】

詳しくは分からないため、次回会議で資料を用意したいが、必要かどうか決めてほしい。

【山口会長】

次回会議でよいか。

【尾崎委員】

マップができている。旧直江津市街地や旧高田市街地、この近くだと上越新幹線駅周辺というようにいろいろなっていて、そこから外れるところは計画外という考え方になっていると思う。三郷区や高士区など外れているところが多いわけだが、そこに対しての人口減少問題について市はどう関わっていくのかというところを、もし次回までに分かったら教えてほしい。

【山口会長】

立地適正化計画を次回の資料として用意してほしい。

他に意見を求めるがなし。

次に、今後具体的に何について議論を進めるか、2班に分かれて話し合いたい。

班分けについて、事務局に説明を求める。

【小林主任】 0 : 40 : 59

・班分けについて説明

1班・・・池内委員、尾崎委員、二野委員、山田委員、竹内副会長

2班・・・伊藤委員、加藤委員、保坂真由美委員、横尾委員、山口会長、保坂副
会長

【山口会長】

グループ討議に入る前に、三郷区に転入された方との座談会について、改めて委員に意見や質問を求める。

【池内委員】

転入された方は、3人しかいないのか。

【山口会長】

4人だったが、1人は都合が悪くて来られなかった。

【池内委員】

たった4人しかいないのか。

【山口会長】

もっといる。声掛けして、参加したのが4人。

【池内委員】

転入者の総数はどのくらいなのか。

【山口会長】

そこまでは調べていないが、各委員が知っているだけでも10人近くいた。ただ、転入から5～6年以内と絞った。

【竹内副会長】

結構年数が10～20年経っている方も地域にはいる。「この人が転入者なのか」という人もいる。

【池内委員】

長者町でも3～4人はいる。

【山口会長】

長者町の方にも声を掛けたが、都合が悪いという方もいた。全ての方をというわけにもいかない。今後の一つの課題だと思う。

【横尾委員】

私も資料を読んだが、身内の方の近い所に来るというのは、やはり老後にそういった方の力を借りたい、近くにいれば安心感があったりするためかなという印象を強くした。皆さん住んでよかったと感想を述べているのはよかったが、3人だけだとそう決めつけるわけにもいかない。私は買い物がだんだん遠くなってきていると感じているが、近いと感じている方はもっと不便なところにいたのか。相当元気な方なのかと感じた。

【山口会長】

若い方と、私くらいの年代の男性の方。家族でも話し合ってきたのだと思うが。

【横尾委員】

老後のことを考えて、身内の方の近くにいたいという心境があると感じた。それがまずポイントかと思った。

【山口会長】

3人だけの意見で、果たしてそれが人口減少のポイントかということは私も感じたが、異口同音に住環境がよいと言っていた。私自身も三郷地区は、防犯も含めて住環境はよいのだろうと思っている。そういったものは他の地区にもあるのだろうが、農村という環境の中でも住環境がよいというのは一つの売りかもしれない。それをセールスポイントとして出してよいかどうか。後で触れたいが、その辺りがポイントなのかなと思う。

【伊藤委員】

この前同じ年代の方と話す機会があった。前回の会議は転入された方だったが、逆に出たいという方もいて、理由を聞いたら、敷地が広いため自分で管理できないし、それを自分の子どもに残すのもどうなのかということがあり、できれば団地のような小さいところに出たいとのことだった。別の方はよいところではないかと話

していたが、そのような考えの方も中にはいる。よいところはよい、悪いところは悪いで。

【山口会長】

必ずしも、みんな同じ考えではない。

2班での話合いの中で、今のことを振り返りながら話してもらってもよい。

どういったポイントを話し合えばよいかについて、竹内副会長に説明を求める。

【竹内副会長】

我々は人口減少について今まで何度か議論し、それを踏まえて、三郷に転入された方との座談会や高士区地域協議会との意見交換会をしてきたが、具体的に我々としてどのようなことができるのかを。繰り返しになってしまうかもしれないが、当初意見が出た三郷のPRをするためのマップといったものが、実際どのような形で実行できるのかということ。小さなことでもよい。これが三郷の人口減少にプラスになるのではないか、ということ具体的に話し、それに向けた方向性はまた皆さんと議論していけばよいと思う。三郷まちづくり振興会が設立されたが、例えばそういった組織と地域協議会がコラボレーションし、地域活動支援事業を活用して実施できるよう進めていくという具体例を、この後協議してほしい。

【山口会長】

竹内副会長の話を参考にしながら、今までの振り返りも含めて話してもらいたい。

—グループ討議—

【山口会長】

話合いの結果について、順番に発表してほしい。

【竹内副会長】

1班では、冒頭に尾崎委員から話が出ていたが、難しいことだが、コンパクトシティ化のエリアの検討について、条例等を見ながら地域協議会で話し合い、市へ意見したらどうかという話が出た。市の中で前例のあるアーバンビレッジ構想もあるが、そういったことも三郷区で取り組んでいけるか検討しながら、市の方とも今後の圃場整備との関わりもあるため、考えていけるのかなと思った。

また、空き家と空き地のバンクを三郷区の中で設立し、その辺の情報関係を取りまとめ、今後市外・県外などに発信する。保倉区にある、保倉地区定住化対策会議が設置した「保倉地区で家が建つ」という看板のようなものを、まちづくり振興会とコラボレーションして、予算を計上しながら設置していくよう今後話し合いをしていく。所有者の関係もあるため、その辺は慎重な取扱いをしながら検討していきたい。桜町ですら今空き家があり、アパートの空きもあるという話があった。その辺も含みながら進めていければと思う。

三郷のよさも見出していかないといけないということで、PR的なものを発信するために、三郷の魅力を見つけ、それを情報誌なり看板なりで、という形で進めていきたいと話を結んだ。

空き家の活用として、新築する方が多いため、長者町でもあったような形で活用できるよう、情報発信するのがよいのではないかという意見が出た。

【保坂副会長】

地域協議会の役割として、いろいろ話し合いをしたことをまとめて提案することはできるが、実際の活動はできないことをまず確認した。

では何ができるのかということで、まず町内会長からも協力してもらい、できる範囲の中で空き家、空き地の把握をした方がよいのではないかと。

2月16日に諏訪区で諏訪地区の空き家の問題などについての講演会があったが、皆さん聞きに行けなかったため、もし勉強会としてその辺の話を聞くことができれば、そのような機会を得て勉強してみたいという話が出た。

そして、三郷のよさをPRできるような資料。三郷とはどこにあるのか、どんな活動をしているのか。転入された方も話していたとおり、病院が近かったり、いろいろな公的な機関が近かったり、あるいはお店も近いため、その辺のところを入れたりして三郷のよさをPRできるような資料を作れたらよい。それにあたり、まちづくり振興会と一緒にやっていけるところはやっていきたいという話が出た。

【山口会長】

話し合いの結果をもとに、今後何について議論するか、正副会長でさらに絞り込みたい。次回の会議で、そのことについて皆さんから検討してもらうことになる

かと思う。

—次第5 事務連絡—

【山口会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・第8回地域協議会

3月26日（火）午後6時30分～ 三郷地区公民館

- ・事務事業評価の実施について、資料No.8に基づき説明

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。